



季刊

東海大学と地域が創りだす、地の縁・知の園・地の宴。

Chi·e·n

## 巨大なイルミネーション・ツリー

恒例のイルミネーションも中止となり  
キャンパス内への立ち入り制限は今も続く

下校時に聞こえた学生たちのにぎやかな声  
夕暮れ時に見かけた子ども連れの住民たちの姿

今は見ることのできない景色を想い  
再び灯がともることを願う



02-03

第14回“ちえん”をつくる人々  
東海大学×神奈川県住宅供給公社 地域連携事業  
「伊勢原団地12号棟学生入居用改修事業」

04-05

ちえん探訪記  
#06 「子ども科学館フェスティバル」

大学から地域へ  
卒業生の方々による地域貢献

06-07

つかのはら通信  
大学と地域の連携活動をご紹介

学生4コマ漫画 I・MA・DO・KI  
第14回「冬！」

08

新たなスタイルで学ぶ 新しい日常 生涯学習講座 Vol.6  
「インド映画と神話の世界 インド映画からインドの神話に触れよう」

Information

TAKE FREE  
January 2021

Vol.14

東海大学地域連携紙「ちえん」(湘南版) Vol.14  
発行日／2021年1月18日  
発行／東海大学地域連携センター  
後援／平塚市、秦野市、伊勢原市

昨年11月6日に湘南キャンパスの19号館1階で行われた「伊勢原団地12号棟学生入居用改修事業」の表彰式



## 伊勢原団地を学生の案でリノベーション 地域のコミュニティ活性化に一役

### 第14回 “ちえん”をつくる人々

東海大学×神奈川県住宅供給公社  
地域連携事業

「伊勢原団地12号棟学生入居用改修事業」

学生のアイデアを生かし、昔ながらの団地を学生同士や地域住民との交流の場に——東海大学が昨年1月に神奈川県住宅供給公社と締結した連携協定の一環で、工学部建築学科の学生と大学院生が「伊勢原団地12号棟学生入居用改修事業」に取り組んでいる。神奈川県住宅供給公社が所有する伊勢原団地12号棟を学生が入居する建物としてリノベーションし、地域コミュニティスペースも充実させることで入居率の悪化や入居者の高齢化、コミュニティの衰退といった周辺地域を含めた課題を解決するアイデアを提案しようという取り組みだ。3チームが9月25日にオンラインで開かれた最終発表会に臨み、11月6日には湘南キャンパスで表彰式が行われた。

## エンドユーザーを想定しながら検討し提案する



工学部建築学科 山崎俊裕 教授

東海大ではこれまで、学生の新しい居場所づくりや地域と連携して行う取り組みをさまざまな形で展開してきました。昨年1月に締結された神奈川県住宅供給公社との連携協定は、東海大が持つ「知的資産」と公社が持つ「不動産資産」を利活用し、地域住民とともに問題を解決していくことを目的としています。有志の学生がコンペで競った「伊勢原団地12号棟学生入居用改修事業」プロジェクトは、その一環でした。

公共賃貸住宅は全国的に住民の高齢化が進み、空き家が目立つといった課題を抱えています。そこをリノベーションして学生が入居し、地域住民と交流を図る。そうした試みは、私たち建築学科や工学の分野だけでなく、地域福祉や高齢者介護といったさまざまな側面からアプローチできる、大

学が今まで模索してきたことと方向性が合致したと感じています。学生に案を募った際は、どれくらい集まってくれるか心配でしたが、問題意識のある学生11名が参加してくれました。

ただ、コロナ禍で現地調査や公社のモデルルームを見学できず、特に残念だったのは住民の意見を聞けなかったことです。建築は器だけでなく、そこに住む人たちの生活背景を踏まえることで新しい提案ができます。ユーザーと対話しながらつくっていかないと、本当に幸せな建築にはならないのです。相手が見えないシャドーボクシングのような状態で、しかも建物の構造躯体については撤去および開口部等は設けない・確認申請は伴わない計画にするなどの制限がある中、学生たちはそれぞれの視点から工夫してくれました。

中でも横丁空間を設けたり、バルコニーを交流の場にしたりと、階段型の住戸では従来あり得ないものにチャレンジして提案に結びつけた点は、よく頑張ったという印象です。また、ハード面以外では、共有空間にカフェやフィットネスルームを設置、さらにその運営や管理というマネジメントまで踏み込んだのも新鮮でした。通常の設計では器の提案だけを行うのが一般的だったからです。

今回のプロジェクトでは、コンペ受賞者の実現可能なアイデアを組み合わせてリノベーションを進め、2022年春の入居を目指していきます。大学の授業では日ごろ、演習として設計などに取り組んでいますが、大学教育は今後、シミュレーションとしてしていく時代から実学的な立場で

実践していくことが重要になってきます。そういう意味で、エンドユーザーを想定しながら検討し、提案までこぎつけたことは、学生にとってもいい実体験になったと思います。



新型コロナウイルス対策のため、携わった教員から遠隔で言葉が贈られた

# 若い力を生かし地域の課題を解決する



神奈川県住宅供給公社 賃貸事業部設計監理課 佐々木匠さん

今回の連携協定の締結は、お互いの強みを生かして連携していきたいと考えたことがきっかけです。公社としては、総合大学である東海大のさまざまな「知的財産」を共有し、東海大には公社の「不動産資産」を有意義に活用してもらう。その用途には、たくさんの可能性があると思います。

「伊勢原団地12号棟学生入居用改修事業」プロジェクトは、連携協定の初めての取り組みでした。学生の提案は全体的に、私たちがこれまでやってきたものとは違った、学生ならではの内容が多く、現場の職員は非常に勉強になりました。コンペでは実現性を重視して評価しましたが、例えば階段室とバルコニーを利用した動線を計画し、団地の横のつながりを持たせたアイデアは面白かったですし、共用部を荷物預かり所にするという提案は、公社の他の団地でも生かせると感じました。

今回の提案をベースに、今後は設計や工事を進め、2022年の入居を目指します。各工程ではできる限り学生の皆さんにも打ち合わせや現場に入ってもらいます。実務を経験することによって即戦力の学生を育てたいというのは、連携協定における大学側の目的でもありますし、実際の現場を経験するのは学生にとってもプラス材料になるはずです。公社の住宅は今、入居率の低下が課題で、高齢化も進む地域では、若い人のパワーを求めていました。学生がそうした地域に入ることで、さまざまな問題の解決策が見えてきます。今回のプロジェクトをしっかりと進めていくとともに、これからはコミュニティの体制づくりや、団地だけでなく地域の活性化につながるような取り組みをできたらと思っています。

## 現場で新たな学びを得る

### 最優秀賞を受賞したAチーム

#### ●茂木涼介さん

今回はオーソドックスな階段室型の団地（2部屋に一つ外階段がついている）なので、同じ棟でも使う階段が違う人とは遭遇する可能性は少なくなります。そこで横のつながりをどうつくるかが最初のテーマでした。この団地はバルコニーがキッチンに面している特徴があり、キッチンを共有スペースとしてバルコニーをつなぐことで2部屋の横移動が可能になり、だんだん形が決まってきました。リモートでのやり取りは大変で、意見が食い違うこともありましたが、途中から3名の役割分担を明確にしたことでスムーズに進んだような気がします。

#### ●幕内稟也さん

ソフト面に関しては、今まで東海大が行ってきた地域住民向けのワークショップなどを12号棟を中心開催できるようにして、多くの人がフレキシブルにかかわるような居場所にしようと考えました。例えば、地域にある手芸コミュニティを学生に知ってもらう機会をつくるといった案もあります。本来行う事前アンケートもできなかったので、インターネットなどで情報を集めるなど、今までとは違ったやり方を経験できたのも勉強になりました。

#### ●相沢悠斗さん

学生が成長できる場所、ここに入居し生活したことが誇れるような団地を目指すという軸が決まってから、全体的にまとまりました。提案がどの程度採用されるかわかりませんが、団地が完成した時点で100%になるのではなく、地域とともにこの団地がよりよくなっていくのが理想です。ですから完成してからがスタートという提案にしています。

左から 工学部建築学科3年次生 相沢悠斗さん、  
大学院工学研究科建築土木工学専攻修士1年次生 茂木涼介さん、  
幕内稟也さん

### 優秀賞を受賞したBチーム

#### ●酒井賢一さん

「学生ファースト」をテーマに、自分たちが実際に住むならどんな部屋や団地の外構部分だったらいいかを考えました。こだわったのは外部空間で、南側の「だんだんテラス」では学生が勉強や作業をしたり、畑で野菜を作ったりします。北側の「伊勢原ウンジ」（イセハラウンジ）は地域の人たちと学生が交わる憩いの場として、野菜を販売したり、学生が企画した月1回のイベントを開催したりします。増改築までできるともっと面白さが出たかもしれません、逆にリノベーションという制限があったからこそ、「ここを攻めていこう」といった考えを持ってた気がします。普段、建築学科では、ここまでリアルに細かい部分まで追求して設計したことがなかったので、とても勉強になりました。

#### ●永渕光啓さん

入居学生がペアを組んで、地域の課題を解決し発表するイベントを毎月開き、その発表資料をまとめて保管して新入生や地域の人がいつでも見られるように置いておく。それによって伊勢原はどんなところなのか、大学ではこんな活動をしているなどを知ったり考えたりするきっかけにしてほしいという思いがあります。各部屋については、学生は洋服や物が多いことから収納にこだわりました。ベッドの下に収納スペースを設け、机は格納できるタイプにして、使用しないときは畳めば部屋を広く使えます。そのように家具などの寸法はすごく考えました。どれぐらいの大きさで何が入るかと、気になったらすぐにメジャーで測ったり、模型を作ってスケール感を把握したりしました。

### 敢闘賞を受賞したCチーム

#### ●小山裕史さん

僕たちは、家賃を抑えるために5~8人部屋を提案しました。ただ、シェアするという形では人間関係の問題も起ることと思うので、別の階の学生と部屋を交換することも可能にしました。中央に共有部分がありつつ、個室でプライバートも保てるという構造です。また、1階にパブリックスペースやワーキングコモンを設置し、同じ団地内でも距離を保てる工夫をしています。建物の周囲は、駐車場のスペースを狭めてパブリックガーデンとし、畑や観葉植物の栽培ができる環境を作ります。植物はバルコニー部分を緑化するために使い、軌道に乗ってたら外部へのレンタルや販売も考えています。収益が生まれれば、それで家賃を賄うこともできると提案しました。

#### ●山田康太さん

今まででは、空間をつくるうえで、形を目にして意見し合えたことが、コロナ禍の中ではできませんでした。3Dやスケッチで考えを人に伝える難しさ、それを共有してグループの方向性を同じにしていく難しさがありました。

#### ●難波豪一さん

リモートでのやり取りだったので、オンライン作業に慣れるまでに時間がかかりました。3名中2名が意見を交わしていると入りづらく、空いている時間帯もバラバラで打ち合わせ時間を確保するのも苦労しましたが、新しい形での作業は学ぶことも多かったです。

左から 工学部建築学科4年次生 小山裕史さん、山田康太さん、  
難波豪一さん

# ちえん 探訪記

#06

「子ども科学館フェスティバル」

コロナ禍に  
配慮しながら、  
これからも  
関係を大事に  
していきたいですね！

教えることが好き、子どもが好きな方々  
に来てもらえると相乗効果が生まれると  
思っています。「子ども科学館フェスティ  
バル」だけでなく、他のイベントなどでも  
かかわっていけたらうれしいです。

子ども科学館職員OBの  
実験ショー

今までは施設やイベント主催者の  
方々からお誘いいただいて活動して  
いましたが、今後は積極的に私たちか  
らもお声がけし、活動範囲を広げてい  
けたらと考えています。

また、新型コロナウイルスの状況を  
考慮して、SNSなどで実験動画を公  
開する計画を立てています。ぜひツ  
イッターをフォローしてチェックし  
てみてください！



twitter @sc\_tokai



伊勢原市立子ども科学館が年に1回開催している「子ども科学館フェスティバル」に、チャレンジセンター「サイエンスコミュニケーター」が協力しています。2020年は新型コロナウイルス感染症の情勢を考慮し中止されました。これまでの活動内容を同科学館の古賀勇介さん（東海大学卒業生）と、サイエンスコミュニケーターの高橋咲希さん（工学部応用化学科3年次生）にインタビューしました！



毎年、5月5日の子どもの日に合わせて3日間連続で開催している、子ども科学館の一大イベントです。科学館に勤めていた職員OBや、警察署と消防署、地元の天文学サークルや中学校の科学部など、たくさんの方にご協力いただいっています。

**Q サイエンスコミュニケーターは何年ほどかかっていますか？**

2013年から毎年ベースにご協力いただいています。地元の大学生との交流を通じて、訪れる子どもたちがよりいつそう科学への興味関心を深められたらと思っています。

**Q 学生がかかることによって生まれるメリットは何ですか？**

職員よりも年齢が近いので、子どもたちが気軽に質問しているように感じます。また、大学で専門的に学んでいる方から教わることにより、子どもたちが将来を考えるきっかけになつたらしいな、と思っています。



**サイエンス  
コミュニケーターの  
プロフ(2019年時)**

**スライムづくり**



**Q これから子ども科学館および周辺地域とは  
どのようにかかわっていきたいですか？**



昨日は～



子ども科学館の部屋にある机やイスの高さといった環境をふまえて、何の工作を行うか考えています。また、毎年来場される参加者が飽きないように、前年とは違う工作を用意するように意識しています。

**Q 工作教室ではどんな工夫をしていますか？**



「理科離れを防ぎ、科学の楽しさを通じて人と人とのつながりをつくる」をテーマに掲げ、小・中学生を対象に科学の楽しさを伝えていきます。子ども科学館からは毎年「子ども科学館フェスティバル」にお誘いいただき、工作教室を行っています。

子ども科学館から毎年「子ども科学館フェスティバル」にお説明いたします。科学館の楽しさを伝えていきます。

3日間の合計で  
**1500人**ほど  
来場されました！  
(2019年時)



Q「子ども科学館フェスティバル」とはどのようなイベントですか？

Qサイエンスコミュニケーションの活動の目的はなんですか？

**古賀 勇介さん**  
伊勢原市立子ども科学館  
(2016年東海大学卒)

**高橋 咲希さん**  
工学部応用化学科3年次生

# 大学から地域へ

## 一卒業生の方々による地域貢献一

湘南キャンパス周辺で地域貢献活動に積極的に取り組む卒業生にスポットを当て、  
“地域人”としての素顔をご紹介！

### Close up!

#### 地域を盛り上げて約30年！

東海大学駅前商店会協同組合 常任理事  
有限会社やながわクリーニング 代表取締役  
たたら たかひこ  
**多田良 貴彦さん**

- 静岡県出身、神奈川県秦野市在住
- 東海大学体育学部体育学科卒業  
東海大学準硬式野球部出身  
教員免許取得
- 趣味はスポーツ観戦など

•プロフィール

1984年に東海大学体育学部体育学科を卒業し、10年間スポーツメーカーに勤務。その後、縁があり、やながわクリーニング店を継ぐと同時に、東海大学駅前商店会青年部に所属。青年部長を務めた2003年に「第56回秦野たばこ祭り」で出展するフロート車を東海大生と共同制作したこと、学生との関係を築き始める。2012年から4年間、駅前商店会理事長を務めた。現在は常任理事として地域のお祭りや川のそうじといった地域活動を、卒業生かつ商店会の責任者として支えている。

花壇の植え替え  
総勢40~50名の地域住民と学生が参加。  
学生が自作したラベルには花言葉も添えられています。

第56回秦野たばこ祭りのフロート車  
多田良さん自身思い入れのある学生との初の共同制作。  
金剛力士像などをデザインした本作品は金賞を受賞！

東海大学駅前商店会は、駅前広場で季節に合わせたお祭りや、地域活動として川そうじやゴミ拾い、花壇の植え替えなどを行っています。お祭りでは、文化部連合会や望星会、体育会、学生会などから多くの学生が参加し、音響などの裏方や、サークルの特色に合わせた露店、吹奏楽研究会によるステージなど、幅広く協力してもらっています。

地域活動の一つとして、毎年東海大学前駅の花壇を整備しています。この活動にはチャレンジセンターの学生が参加し、花のテーマ決めやラベルの作成など積極的に参加してくれています。

このような駅前商店会を通じたイベントは、学生にとっては地域の人々に日ごろの成果を披露する絶好の機会であり、商店会は学生が参加することでイベントがよりいっそう盛り上がるなど、両者にとってプラスの関係が保たれています。

「あくまでボランティアの一環ですので、学生に負担がかかりすぎないよう密に連絡をとることが一番重要です」と、多田良さんはよい関係を続けられる秘訣を話します。代替わりの引継ぎでは必ず年度末に前部長と新部長を招集し、お祭りの内容や年間行事について話し合っています。

その結果、東海大生と駅前商店会の長年の関係は近隣の地域にとても評判で、「学生とのかかわりをうまく保ち続ける方法をぜひ教えてほしい」と、近隣の商工会から何度も取材を受けたこともあるそう。

多田良さんの印象に残っているイベントは「第56回秦野たばこ祭り」。フロート車を共同制作した学生について、「当時は何度も意見がぶつかりましたが、話し合いを重ねたことで金賞を受賞できました」と話してくれました。卒業後も多田良さんの元へ顔を出してくれたそうで、地域活動を通じて関係が続いたことがとてもうれしかったといいます。

今年度は思うようにイベントが開催できず商店会も苦い気持ちだと打ち明けます。今後の活動が徐々に再開される日を願うばかりです。

# つかのはら通信

平塚市、秦野市、伊勢原市の3市(つか・の・はら)において  
実施された大学と地域の連携活動をご紹介します。



## ナイターバドミントン教室 東海大の選手が コーチを務める

昨年10月6日から12月1日までの毎週火曜日に秦野市総合体育馆で「ナイターバドミントン教室」が開催され、湘南キャンパスの男女バドミントン部の選手がコーチを務めた。この教室は、秦野市スポーツ協会が地域住民の健康維持と競技普及を目的に毎年開催している。今年度は20代から60代までの地域住民が参加し、新型コロナウイルス感染症の対策を徹底して実施された。選手たちはラケットの持ち方など基礎的な技術や、ネット際に上がってきたシャトルを打ち込むといった、試合で生きる高い技術など幅広い難易度のレッスンを展開。今年度の同部は、新型コロナの影響で春秋のリーグ戦が中止となっており、乾英奈主将(体育学部4年次生)は、「私たち4年次生は出場する大会がなくなってしまったが、今回のような形で競技を通じて地域貢献ができてうれしい」と語った。

## はだの丹沢クライミングパーク 学生がロゴマークとマスコットキャラクターをデザイン

昨年6月に秦野市にオープンした「はだの丹沢クライミングパーク」のロゴマークとマスコットキャラクターのデザインに、教養学部芸術学科デザイン学課程3年次生の信田梨乃世さんと鈴木舜花さんの案が採用された。7月に市の担当者に向けてオンラインでプレゼンテーションし、10月19日の同市定例記者会見で結果が発表された。信田さんが考えたロゴマークは、クライミングの壁に据えられているホールドと丹沢の山々を重ね合わせ、青・赤・黄の3色でカラフルに仕上げた。鈴木さんは、市内に生息するシカをモチーフにしたマスコット「ディップル」を考案した。今後は同施設のぼり旗やクリアファイルなどさまざまなグッズに活用される予定。



## 東京農業大学から野菜の提供 伊勢原市を通じて東海大へ

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けている大学生を支援したいと東京農業大学から伊勢原市に野菜が寄贈され、伊勢原市から東海大学に提供された。今回提供されたのは、東京農業大学伊勢原農場で栽培されたジャガイモ(約25kg)とサトイモ(約50kg)。同大厚木キャンパスでは、例年11月初旬に「収穫祭」を開催し地域住民に無料配布していたが、今年度は収穫祭が中止となったことから、コロナ禍でさまざまな制約を受けている地域の大学生を応援したいという同大の高野克己学長の意向により伊勢原市に寄贈され、包括協定を締結している東海大学と産業能率大学に贈られた。提供された野菜は地域連携課の池田隆之課長から男女柔道部の選手と、陸上競技部駅伝チームの小池翔太コーチ(東海大学職員)にそれぞれ手渡された。

## ちょっとひとやすみ

下にある2枚のイラストを見比べて、**10カ所**の違いを探してみてください!  
答えはトコラボWEBサイトに掲載していますので、ぜひご覧ください。  
イラストは秦野市の名所・名産がモチーフです。

答え合わせはこちちら!

トコラボWEBサイト  
ちょっとひとやすみ特設ページ



URL: <http://coc.u-tokai.ac.jp/chien-hitoyasumi/>



## 「Kanagawa Wellness Corridor」臨時総会・理事会・情報交換会などを開催



東海大学ではこのほど、神奈川県内の3市3町(平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町、二宮町、中井町)や企業、団体と連携して一般社団法人「Kanagawa Wellness Corridor」(KWC)を設立。昨年11月5日に湘南キャンパスのコム・スクエアで臨時総会ならびに臨時理事会、第1回総会、情報交換会を開催した。東海大学では昨年4月から「ポストコロナ時代」を想定して、「ウェルネス」を構想コンセプトに、大学を中心とした神奈川県西部の再生とイノベーションによる広域開発構想について検討を重ねてきた。KWCは東海大学が中心となって都市と里山の間を回廊(Corridor)で結び、デジタル技術を活用して広域エリアマネジメントを取り入れるとともに、大学、自治体、民間企業による共同で新たな産業を創生・育成することを目指す。

## キャンパス内のブロンズ像を教材に「彫刻を触る☆体験ツアー」



課程資格教育センターでは昨年11月7日に湘南キャンパスで、実践実習プログラム「彫刻を触る☆体験ツアー」を実施。学内に設置されているブロンズ像を教材として活用し、学芸員を目指す学生たちが文化財の保存修復に関する実践的な知識や技術を習得する機会にしようと毎年実施している。今回は高嶋直人氏(野外彫刻調査保存研究会)と野城今日子氏(東京文化財研究)を講師に迎え、学生約10名のほか秦野市や小田原市などの文化財担当者、市民らが参加した。参加者は、北村西望作「松前重義胸像」と舟越保武作「山田守像」の2体のブロンズ彫刻の汚れを落とす作業やワックスを塗って磨く作業を体験。高嶋氏や野城氏から汚れの落とし方や磨く際の注意点を聞くとともに、設置環境がブロンズ像に与える影響などを学びながら作業に取り組んだ。

## 波力発電をモチーフに平塚市の大漁旗を学生がデザイン

教養学部芸術学科デザイン学課程3年次生の小野千晶さんが、平塚市をイメージした大漁旗をデザインした。同市が、SDGs(国連が定める持続可能な開発目標)と最先端の科学・技術の視点で「まちづくり」を推進する「日本各地を繋ぐ大漁旗プロジェクト」(主催=科学自然都市協創連合)に参加するにあたり、包括協定を締結している東海大学に制作を依頼。同課程の池村明生教授が担当する授業「デザイン連携プロジェクト」の一環として協力し、同授業を履修する小野さんが担当した。平塚漁港に設置されている平塚波力発電所や平塚沖総合実験タワーをメインに、湘南平や七夕まつりなども取り入れてデザイン。大漁旗は、日本沿岸を航行する船に託して各地域をつないだあと、東京大学本郷キャンパスの安田講堂に展示される予定となっている。



学生4コマ漫画 作・青田みい  
I・MA・DO・KI 第14回 冬!



「げしゅくLife」では毎回、東海大学に在籍する留学生をご紹介！日々の暮らしや将来の夢など、留学生たちの思いをインタビューします！さて、今回ご登場いただく留学生は……？

### International student's げしゅくLife

日本の自動車や文化に興味があったというハキミさんは、2018年の3月に来日しました。事前に3年間、日本語を学んでからの留学でしたが、それでも言葉に苦労したと話します。「実際に日本人が話す言葉は速くて聞き取れないことが多く、これまで学んできた日本語とは大違いで驚きました」と振り返ります。

このままではまずいと、趣味であるフットサルのサークルに所属し、日本人の友達を増やして会話の勉強に励みました。交流を深めるうちに言葉にも慣れて、千葉県で行われたマレーシアを紹介するお祭りでは通訳のアルバイトにも挑戦しました。「マレーシアの文化やハラールフード(イスラム教の教えで食べてよいとされている食べ物)を紹介するなど、来場者との会話を通じて自分自身も勉強となり、いい体験になりました」と語りました。

旅行も好きだというハキミさんは、所有する自動車で岡山県や福井県を行ったという行動力の持ち主！また、北海道へは飛行機で行き、温暖な気候のマレーシアでは見ることができない一面の雪景色に感動したそうです。

言語ニモマケズ コロナニモマケズ 頑張る未来のエンジニア  
ピン モハマド カマム ハマド ヌル ハキミさん/  
Bin mohamad kamal Muhammad nur hakimi  
(大学院工学研究科機械工学専攻1年次生/出身:マレーシア)

現在はコロナ禍で趣味の旅行はもちろん、母国へもなかなか帰ることができない状況ですが、家族とはビデオ通話で連絡を取り合っているとのこと。大学での勉強はオンライン授業が主となり、今までとはまた違う環境で日々奮闘しています。

将来は自動車のエンジニアになりたいというハキミさん。コロナに負けず、これからも頑張ってください！



▲湘南キャンパス周辺で一人暮らしをしているハキミさん。オンラインで取材しました！



Vol.6

新たなスタイルで学ぶ 新しい日常



## 生涯学習講座

東海大学地域連携センターの「生涯学習講座」を大解剖!

毎回ユニークな講座をピックアップしてその魅力に迫ります!



## インド映画と神話の世界 ◇◇

インド映画からインドの神話に触れよう

まずはインド映画を見てみると  
面白さがわかるはずです!歌って踊るだけではない  
インド映画の奥深い魅力

近年、インド神話をモチーフとしたゲームや『バー・フバリ』をはじめとしたインド映画の人気もあり、日本におけるインド文化への注目が集まっています。本講座では、インド映画から神話や宗教をどのように読み取れるのかに着目。より楽しく映画を鑑賞し、作品の背景となっている神話についても知見を深めることができます。映画ファンも神話ファンも楽しめる講座です。



## 講師の先生からメッセージ

全国各地から受講生が集まる オンライン講座の利点

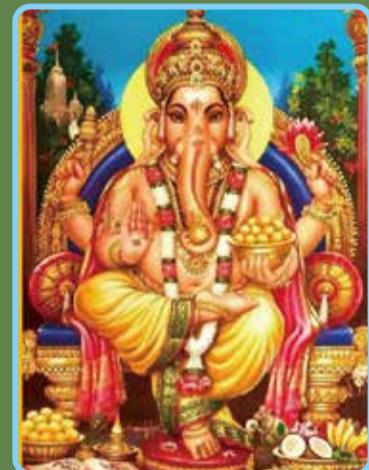
前回初めてリアルタイムでオンライン講座を開講しましたが、当日に機器の不具合が発生するなど、対応がままならず苦労しました。また、通信回線混雑の影響を鑑みてビデオオフ・マイクミュートで講義を行いましたが、対面形式と比べてやはり受講生の反応が見えないのは少し寂しいですね。

しかし、オンライン講座では全国各地の映画・神話ファンが一堂に介して講義できるので、対面と比べて地域と人数の制約がない分、どこからでも受けられるのはとてもよい点でした。

## 映画と神話から インド思想へ広げた講座を

インド映画やインド神話の世界は、1回の講座時間では語り尽くせない面白さがあります。次に開講する時はその面白さをもっと解説したいですね。

さらに、映画や神話といったエンターテインメントの背景にある思想を読み取るなど、私が専門とするインド思想や哲学に結びつけた講座も行いたいと考えています。



こんな方におすすめ!

- ◆神話に興味がある方
- ◆インド映画が好きな方



インド映画について  
さまざまな角度から考えること  
ができます。



遠方で通えないため、  
自宅で受講できるオンラインの  
講座は大変助かりました。

## \*\*\*\*\* Information \*\*\*\*\*

## ● 東海大学 生涯学習講座からのお知らせ ●



最新情報はこちら!

東海大学  
生涯学習講座WEBサイト<https://ext.tokai.ac.jp>

 To-Collabo sisters
 

 Bird\_kozakura\_mofu


## 駅伝チームを応援する横断幕が飾られました



湘南キャンパスの陸上競技部駅伝チームの第97回東京箱根間往復大学駅伝競走出場を応援するメッセージの入った横断幕が、昨年11月21日から小田急線東海大学前駅と鶴巻温泉駅の駅前に掲示されました。キャンパスのある秦野市と東海大学駅前商店会協同組合、鶴巻温泉南町商店会、本学同窓会神奈川ブロック中央支部、秦野あづまライオンズクラブが協力し、箱根駅伝で総合優勝を目指す同チームにエールを送ろうと初めて企画されたもの。同日、東海大学前駅では呼びかけ人であり、本学卒業生のあそ佳一さん(秦野市議会議員)をはじめ関係者らが集まり、応援用の小旗を振ってエールを送りました。



いいね！ :Shark\_is\_kawaii、他

Bird\_kozakura\_mofu 外国語を学ぶ学生たちと国際教育センターが、特設WEBサイト「バーチャル国際フェア」を公開しています。各国を紹介した動画が視聴できますので、ぜひご覧ください！

#コロナに負けるな #国際交流 #グローバル


 Shark\_is\_kawaii

バーチャルでの国際フェア、面白いね！


 Fuwafuwa\_hitsuji

ひつじも、実は英語話せるよ～！

## WEB

東海大学のさまざまな地域連携活動の情報や、ちえんパンクナンバーを掲載しています。ぜひご覧ください！


 トコラボ  
WEB  
サイト
URL: <https://coc.u-tokai.ac.jp>

## facebook

トコラボシスターズ:大学と地域をつなぐ3人娘(いんこ・ひつじ・さめ)とマネージャー(ふくろう)が奮闘中!  
Follow me!



トコラボシスターズ 検索

## ご意見・ご感想をお聞かせください

地域連携紙「ちえん」についてのご意見・ご感想など、お気軽にご投稿ください。  
詳しくは右記QRコードからアクセスし、WEBサイトをご覧ください。

東海大学地域連携センター地域連携課宛のメールでも随時受付中。

東海大学地域連携センター地域連携課  
TEL: 0463-50-2406  
E-mail: [chiiki@tsc.u-tokai.ac.jp](mailto:chiiki@tsc.u-tokai.ac.jp)



地域連携紙「ちえん」次号の発行は未定です。